

第39回： 水環境行政の歩み — 環境基準の設定から水域での取り組みまで —

開催日： 2000年5月11日(木)～12日(金) / 会場： 「(財)日本教育会館 一ツ橋ホール」東京都

開催趣旨： 1970年のいわゆる公害国会で水質汚濁防止法が成立してから、すでに30年が経過しました。その間に、水質汚濁防止法の改正に伴う総量規制の導入や湖沼水質保全特別措置法の制定など、時代とともに法体系も変化してきました。また、時代の経過とともに法律や環境基準の科学的な根拠や経緯が不明瞭になってきています。

これらをふまえて、今一度、水質汚濁防止のための法律の変遷を理解し、基準制定時の科学的根拠を明らかにするとともに、これらの施策に基づく水環境保全への取り組みの具体例を解説していただくセミナーを企画しました。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

- 水質汚濁防止の近代史と現在の法体系（内藤克彦／環境庁水質保全局）
- 水質環境基準健康項目の設定の考え方（西村哲治／国立医薬品食品衛生研究所）
- 生活項目、窒素・リンの環境基準設定の考え方と富栄養化対策（岡田光正／広島大学工学部）
- 排水規制及び水質保全対策とその成果（清木徹／広島県保健環境センター）
- 水道から見た水源水域の水質保全（国包章一／国立公衆衛生院水道工学部）
- 隅田川の環境の推移と改善への取り組み（風間真理／東京都環境保全局）
- 琵琶湖の水質変化と富栄養化防止対策（大久保卓也／滋賀県琵琶湖研究所）
- 洞海湾の水質汚濁の進行と浄化対策（山田真知子／北九州市建設局）
- 水俣湾の水銀汚染の推移と現状（赤木洋勝／国立水俣病総合研究センター）
- 21世紀の水環境行政（須藤隆一／東北大学大学院院工学研究科）